

繁藤月報

〒789-0583

高知県香美市土佐山田町平山1748

天理教繁藤大教会

TEL 0887-57-9207 / FAX 0887-57-9246

聴き手の心構えが足りない

講話や挨拶など人前に立つことが多い私がいうと、なんとも挑発的かつ他責的なタイトルだが、誤解なきよう最後までご一読いただきたい。ちなみに以前に書いた『おはなし』の技術が足りない』というコラムの続編である。

◆至極のおはなし

最近、ハマっていることがある。それは運転中などにお道のおはなしを聴くことだ。

周知の事実だと思うが、天理時報などをスマホで閲覧できる「天理時報オンライン」というサービスがある。そこで最近提供されるようになったのが、昔の偉大な先生方の講演やひとこととはなしの音声コンテンツだ。例えば、筒井敬一先生や常岡一郎先生などの「おやさ」と講演会」や「ラジオ天理教の時間」を聴くことができる。



これらは有料会員しか聴くことができないが、無料のお試し期間もあるみたいなので、ぜひこの機会によければ登録して触れてみてほしい。当たり前だが、私がユーチューブで喋っているものなんかより、段違い

に素晴らしい。念の為にいつておくと、こういう紹介をするとまるで道友社の回し者のようだが、決して裏金を得ているわけではないので、あしからず(笑)。

◆打てば響く人に

ーお道のおはなしは明るい方がいい。先述の音声コンテンツを聴いて、私はこう思った。もちろん苦労話や真面目な話もあってもよいが、「陽気ぐらしの天理教」というだけに、最終的には聴き手の心が温かくなる、希望が湧いてくる話である方がいい。そしてなにより、昔の先生方の話し方の力量に感銘を受けるとともに、音声だけでもひしひしと伝わる話し手の熱い信仰に、尊敬の念が沸き立つ。

と同時に、最近気付いたことがある。それは話し手だけでなく、聴き手のレベルも高いということだ。それは音声から時折漏れ聞こえる笑い声、おはなしに呼応する拍手などから窺える。例えば柏木庫治先生の講演音源を聴くと分かりやすい。繁藤の三代会長である浜田道久先生の講演テープを聞いても同じ感触を得る。

私は実際にその場に居合わせたわけではないが、おそらく聴衆には「打てば響く」という人が多かったのだろうと想像する。例えば「〇〇に向かって邁進しましょう！」と皆を奮い立たせる言葉に「わー！」と拍手が起こったりする。話し手の熱量に対し、それを受ける側の聴衆もまた熱く応えているのだ。場合によってはその雰囲気「熱狂」と表現してもいいのかもしれない。昭和という時代もあるだろう。いや、違う。それだけではないはずだ。

天理時報 *online*



◆良い舞台は演者と観客が共に創り上げるもの

芸能の世界ではこういう表現をすることがある。演劇や歌舞伎、落語の世界でもそうだ。熱狂という点ではアイドルのコンサートも同じことがいえるかもしれない。演者や話し手は、その日の舞台の良し悪しを「観客のせい」にするようなことはあってはならないが、胸が震えるような場を生み出すには、受け手の前のめりな姿勢が必ず要不可欠なはずだ。

◆受け手の心構え・姿勢

おはなしをする側になつて私が思うことは、素直さをもつて聴いてくださる方の態度は明らかに他と違うということだ。また何よりも話し手にとつてありがたい存在である。逆にあえてここで具体例は出さないが、聞き手の態度一つによつて話し手の心を砕くことは簡単だ。

教祖の逸話篇にこんな話がある。

教祖のお話を聞かせてもらうのに、「一つ、お話を聞かしてもらいに行こうやないか。」などと、居合せた人々が、二、三人連れを誘うて行くと、教祖は決して快くお話し下さらないのが、常であった。「真実に聞かしてもらう気なら、人を相手にせず、自分一人で、本心から聞かしてもらいにお願い。」と、仰せられ、一人で伺うと、諄々とお話をお聞かせ下され、尚その上に、「何んでも、今からんとお仕込み下され、お尋ね。」と、仰せ下され、いとねんごろにお仕込み下された。

(教祖伝逸話篇 二の自分一人で)



信仰者として教えに触れる、理を受け取る姿勢には「素直さ」がどこまでも肝心である。かくいう私も、話し手である前に、受け手としての心構えを今一度、自分に問いただきたい。

◆結びに

先の秋季大祭で真柱様から以下のおはなしを頂戴した。

三年千日の期間は、動かしていただくことが大切である。一生懸命取り組んで、年祭の当日、おちばへ帰ってきてきてもこななくても、その日をうれい心で迎えることが出来るように、まだ三分の一残っている三年千日を、勇み心を奮い起こして通ってくださるようお願いしたい。

繁藤につながるお互い、真柱様からいただいたお言葉をただ真っ直ぐに受け取り、打てば響く素直さをもつて、親神様に背中を押していたきたい。

立教一八七七年十一月一日

天理教繁藤大教会長

坂本輝男

【主教百八十七年 秋季大祭 祭文】

これの繁藤大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教繁藤大教会長坂本輝男慎んで申し上げます。親神様には紋型もない処からこの世、人間をお創め下さり、天保九年十月二十六日、旬刻限の到来と共に教祖をやしるにこの世の表に御現れ下さり、元のぢばを始め、よろづいさいの眞実をお明かし下さいまして、陽氣ぐらしへの世界たすけの道をお教え下さいました。爾来、主教の元一日より百八十七年を数えます中に、どんな時も変わららず火水風を始め十全の御守護をもってお見守り下さいます御慈愛の程は、誠に有り難く勿体ない極みでございませす。しかし我々人間は、我さえよくばの心、をやの思召に添わない人間思案によつて、現代においても様々な天災や社会問題、未だ戦争や人間同士の分断、諍いをいたるところで御見せ頂いております。様々な形で世に御見せ頂く事柄を我々一人ひとりに対する親神様のお仕込みとして思案し、胸の掃除、心の成人にとめさせて頂く所存でございませす。私共は、各々がお与え頂いた持ち場立場の上で、存命でお働き下さる教祖の道具衆として、至らぬながらもたすけ一条の御用の上に励ませて頂いて居りますが、本日十月二十一日は当教会にお許し頂く御祭日、主教の元一日の理を拝す日柄でございませすので、只今からおつとめ奉仕者一同、陽氣に座りづとめ、てをどりをつとめ、秋の大祭を執り行わせて頂きます。御前には今日を樂しみに寄り集つたようばく、信者たちがともにおうたを唱和して喜びの心もひとしおに、日頃賜る厚き御恵みに御礼申し上げ、尚も変わらぬ親神様にお縫りする眞実の状をも御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいませすようお願い申し上げます。また本日は、大教会世話人の増井幾博先生に御巡教頂き、後ほど御講話を頂戴いたします。ぢばの声をしっかりと受け取り、繁藤の理に繋がるお互いが、旬をはずすことなく、日々誠眞実の種をまくことによつて、一粒万倍の姿をお見せ頂けるよう、勇んで三年千日を歩ませて頂く所存でございませす。何卒、届かぬところは、幾重にもお仕込み下さいまして、未だ続いたすけ一条の道の歩みを、着実に進めさせて頂きますよう、また世界一れつ兄弟姉妹互いに立て合ひ助け合ふ神人 和樂の陽氣ぐらしの世へと歩みを進められるようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます。

《繁藤大教会立教百八十七年 秋季大祭 祭典役割》

神 殿 講 話	胡 琴	三 味 線	小 鼓	太 鼓	拍 子 木	チ ャ ン ポ ン	笛	地 方	女		男		座りづとめ	賛 者	賛 者	扨 者	扨 者	指 図 方	祭 主																		
									前会長夫人	黒石伸子	坂本久徳	田村久徳								佐藤成彦	為田紀久男	為田基紀	伊藤正福	前田 豊	空閑慶吾	佐藤節幸	安部道郎	村上由高	渡辺国源	立花真一郎	空閑 都	空閑 睦美	佐藤 睦美	佐藤 順子			
増井幾博	佐藤文代	空閑 睦美	空閑 睦美	空閑 睦美	空閑 睦美	空閑 睦美	空閑 睦美	藤田善典	藤田 憲明	藤田 栄治	佐藤 栄治	河村道興	村上英士	村上美栄子	藤田洋美	佐藤 順子	増井幾博	立花真一郎	佐々木 恵	前田 豊	田村省悟	田村辰久	田村辰久	大教会長	空閑慶吾	村 上 由 高	田村省悟	安部道郎	空閑一教	田村省悟	座りづとめ	藤田一憲	空閑一教	前大教会長	田村辰久	大教会長	
世話人先生	空閑真理代	佐藤明子	田村純代	黒河明大	秋月真一郎	藤田善典	佐々木 恵	土居道久	坂井博文	立花孝一	宇山基紀	宮田みなみ	宮田まゆみ	宮田まゆみ	河村美佐子	大教会長夫人	黒石伸子	坂本久徳	田村辰久	伊藤正福	前田 豊	空閑慶吾	佐藤節幸	安部道郎	村上由高	渡辺国源	立花真一郎	空閑 都	空閑 睦美	佐藤 睦美	佐藤 順子	座りづとめ	藤田一憲	空閑一教	前大教会長	田村辰久	大教会長

【神殿講話】

(11月) 大 教 会 長

【修養科生並びにおさづけの理拝戴者講話】

(11月) 藤 田 一 憲

【教会長神殿当番】

(11月) 城 幡・未 見・新居濱

(12月) 城 攝・高 阪・武富士

【詰所教養掛】

(11月) 田 村 聡 佐

(12月) 宮 田 孝 道

【詰所事務当番】

(11月) 田 村 庫 治

(12月) 秋 月 英 希

【ひのきしん】

○婦人会詰所ひのきしん

11月25日～26日 (藤 高2名)

【心定め提出のお願い】

各教会には、月報に来年の心定め用の紙を同封しております。〆切は**11月20日**とさせていただきますので、恐れ入りますが遅れないようご提出の程をお願い申し上げます。

【仕切り月 提出のお願い】

本年と同様に、来年も仕切り月に合わせ大教会定例巡教をつとめさせていただきます。この取り組みも来年で3年目になります。年祭活動仕上げの年となる来年、「おつとめ奉仕者の役割の手を揃える」という点に強く意識を持って取り組み、年祭活動の集大成の一つとして、その成果をご存命の教祖に御覧頂きたいと存じます。つきましては、来年の仕切り月の希望月を第3候補まで記入頂き、**11月20日**迄に大教会までご提出下さいますよう、お願いいたします。

【全教会長おぢばがえり団参】

去る10月26日、本年秋季大祭にあわせて、全教会長おぢばがえり団参をつとめさせて頂

きました。大祭修了後には西札拝場にて、おつとめを勤めさせて頂き、教祖百四十年祭に向けて更なる成人を誓わせて頂きました。おぢばがえり頂きました教会長様はじめ、ようばく信者の皆様、誠にありがとうございました。

【青年会】

去る10月27日本部中庭にて青年会総会が開催され、当日は日曜日で大勢の青年会員さんと参加させて頂きました。また前夜祭も大勢の方にひのきしん頂き、賑やかに模擬店を出店させて頂く事が出来ました。誠にありがとうございました。



【婦人会】

◇ひながた勉強会

日時 11月25日(月)午後1時半～3時

場所 繁藤詰所4F大広間

対象 どなたでもご参加ください

※第2部といたしましたして、午後4時から

「みちのだい育み塾」を開催いたします。

婦人会員限定です。たくさんのご参加お待ちしております。

◇こかん様に続く会

去る10月27日、詰所にて「こかん様に続く

会」を開催いたしました。当日は、支部長のお話を聞いた後、振り返りの時間をもち、その後、詰所内のひのしんをつとめました。昼食は、みんなで

たこ焼きを作り、その後ビン

ゴゲームをする

など、集まった

若い仲間同士が

充実した時間を

過ごしました。

過ぎました。



【少年会】

◎研修員43期生募集

少年会本部では、おちばでの様々な研修や

ひのきしんなどの伏せ込みを通して、縦の伝

道を活発に推進していく人材を育成します。

道につながる多くの若者たちが、この研修を

修了し、国内外で少年会活動の中心となって

活躍しています。多くの仲間と共に少年会活

動について学びたい方は団長までご連絡くだ

さい。

募集人数 30名

出願期間 令和6年9月26日～

令和7年2月28日(必着)

出願資格 団長が推薦し、直属教会長が認め

た者・ようぼく

(おさづけ拝戴予定の者も可)

◎ちよっと！パット！べんきょう会

ちよっとした時間で、パットと学べる実技の

勉強会です。お気軽にご参加下さい。

11月26日 鳴物練習が楽しくなる音楽遊び

時間 13:00～13:50

場所 少年会本部 真南棟4階

参加費 200円

対象

育成会員

服装

動きやすい服装

◎お年玉教材

今回のお年玉教材は「ほんわかブランケット」

です。頒布価格480円(税込)でお求め頂

けます。ぜひご活用下さい。発送を希望され

る場合は、所定の申込書に必要事項を記入の

上、郵送またはFAXでお申し込み下さい。

※なお、数に限りがございますので、あらか

じめご了承下さい。

【布教部】

「全教会布教推進月間」の実働報告書を、活

動頂いた内容等ご記入の上、11月20日までに大

教会までご提出下さい。メール・ファックス

でも結構です。

【広報・史料部より】

昨年末より「部内教会略史」の更新として資

料提出をお願いしておりましたが、まだご提

出いただけてない教会には、平成4年に発行

した「大教会年譜表と写真集・部内教会略史」

をご参照いただき、配布致しております歴史代

会長経歴記入用紙と、平成4年以降の教会の経緯記入用紙に、早急にご記入の上ご提出下さいますようお願い致します。

【詰所活用委員会】

皆様の真実を頂きまして、詰所の改修を進めさせて頂いております。誠にありがとうございます。

1階男性トイレの改修に引続き女性用のお風呂の改修をさせて頂いております。今月の本部月次祭にはご利用いただけると思います。詰所をより良く使って頂けるよう進めさせて頂いております。ぜひおちばにお帰り下さい。

又、ふしん費の方も9月までと日を切らせて頂いて居りましたが、来年1月まで延期させて頂きます。ご協力の程よろしくお願いいたします。



詰所改修ひのきしん

【仕切り月の喜び】



西田川部属 添田分教会 10月6日



藤高分教会 10月13日